

## 令和4年度 第3回郡上市地域公共交通会議

○会議名称 令和4年度 第3回郡上市地域公共交通会議

○開催日時 令和4年12月20日(火) 午後2時30分～午後4時30分

○開催場所 郡上市八幡防災センター研修室

○協議事項

議案第1号 郡上市地域公共交通計画の基本方針・施策・事業(案)について

○出席委員 日置市長、尾藤安正、木村治史、田中秀昭、大西春子、田中康裕、三輪政美、林克憲、古川浩二、笠野信男、渥美宏、石田裕、木村昭雄、松原由幸、伊豆原浩二、佐々木綱行、池田喜八郎、恩田邦生、武藤哲文 計19名

○欠席委員 平岩憲政、佐野みゆき、三島宏治、遠藤毅、廣中健太、佐藤智紀、遠藤協一 計7名

○出席者 (事務局：市長公室企画課)

室長 河合保隆、企画課長 入木田瑞樹、課長補佐 鷺見一久、交通対策係長 河合真英、主任主査 河合厚志、主事 河合秀明

高鷲公共交通担当 土岐拓也、明宝公共交通担当 藤代雄二、和良公共交通担当 清水正則  
社会福祉課 井上美奈実、学校教育課 村山尚也

## 1. 開 会 【司会（入木田課長）】

## 2. あいさつ 【会長（日置市長）】

※議長（会長：市長）議事進行

## 3. 協議事項

**議案第1号** 郡上市地域公共交通計画の基本方針・施策・事業（案）について

…事務局より説明 **資料 1-1～1-4**

### ※質疑応答

委員 意見として、資料 1-1 内の、「濃飛横断自動車道の広域幹線ルートの研究」において、濃飛横断自動車道は郡上市から中津川市まであり、中津川市には将来リニアの駅ができることから、リニアアクセスの効果を非常に期待されている道路である。その研究という位置付けであれば、中津川市やリニアの駅というところまでイメージして、視野を広げて研究を進めたらどうか。

事務局 濃飛横断自動車道については、本計画が5年間の計画であるため、どこまで広域的な協議ができるかということもあるが、現行は郡上市と下呂市間において公共交通路線は通っており、市が事業者へ委託し、長良川鉄道を活用した無料バスで実証運行をしているところである。

和良線という路線が、下呂市の金山町まで来ているが、国道 41 号線沿いや鉄道までは接続していない。このことから、まずは郡上市～下呂市間についてどういう交通を通していくかの研究段階にあるため、このような表記にした。

また中津川全体というルートについては、郡上市と中津川市、また中津川市と下呂市を通過して高山市というなかで、まず郡上市としては一番身近なところを研究した後、場合によっては広げていければという考えで表記した次第である。

この郡上市～下呂間の表記については、少し検討したうえで、次回また報告させていただきたい。

議長 当面という考え方ではあるかもしれないが、中津川へリニアが来ることになれば、そうした点も視野に置かなければならない。2027 年度というのは最初の目標でのリニア開業年度になるため、一度検討してみてほしい。

委員 資料 1-1 の 462 番「乗車体験イベントの継続実施」には「PR や実写展示などの周知活動を実施」とあるが、地域懇談会では、大人の方は車がメインで公共交通に乗ったことがないとか、そもそも公共交通機関を知らないという人が非常に多かったので、大人の方にも乗ってもらったほうが良いのではないかと思う。

事務局 乗り方の体験について、462 番の「乗車体験イベントの継承実施」については、小学生等の子どもを中心に表記したものである。しかし各地域での公共交通の周知活動では子どもから大人まですべてを対象に、実際に乗り方等のお話をしていきたいと思っている。

また、自主運行バスは土日に運行していないが、まめバスについては土日も運行しているので、八幡のふるさとまつりでは、まめバスの乗車体験会の機会をつくるなど、幅広く皆さんに乗っていただきたいと考えている。

またそのほかにも、244-1 番の事業内容「高齢者等への移動サービスや公共交通の乗り方等の周知」については、各地域の高齢者サロン等や自治会に公共交通のPRに行き、乗り方のチラシや福祉の情報も交えて、幅広くPRと乗り方体験の取組みをしていきたい。

委員 普段、車で移動するから公共交通に乗らないという方を対象に、実際に乗ってもらうという計画があるといいのではないか。

事務局 普段公共交通に乗ってみえない方に対する取組みとしては、自治会等を対象にした乗り方の体験を計画している。資料 1-1 の 131-1 番、「自治会や地域団体等による公共交通の利用促進や応援する活動の推進」というところで、自治会に対しての周知の際に乗車体験を考えている。また地域懇談会の意見として、「もし自治会の要望で路線を通すことになった場合、必ずその自治会の方に 1 回は乗っていただくということを条件にする」、本当に乗って支えてもらえるような、また知っていただけるような取組みをすると、ふだん乗っていない方も乗るのではないかという意見もあった。

そのような意見も 131-1 の活動に含めて、乗っていない方に対してもPRを進めていきたいと思っている。

委員 資料 1-1 の 474-1 番「高齢化が進むバス・タクシー乗務員の確保対策」については、対策として「二種免許の資格取得費用の助成」と記載されているが、そのほかに何か対策案はあるのか。現状、タクシー業務の運転手不足というのは緊急事態的な状況にある。2024 年には今まで乗務員の労働時間がインターバル、つまり家に帰ってから次に出てくるまでの時間が 8 時間あればよかったが、1 時間増えて 9 時間あけないといけないという事にな

り、事業者にとっては労働時間がより厳しくなっているという状況である。

この運転手の確保対策に関しては、例えばほかの大都市からこの地へ雇用の場として運転手を移住、そういった通常のやり方ではないような公共交通を支えるためのまちづくりをするために、少し変わった視点で確保対策をできないか。

また求人についても、ちょっとした企画やメリットのあるような求人や、特別協議委員会を作るなど意見がでていますが、そういったところにどのような考え、対応、方針があるのかお聞きしたい。

事務局

現時点での対策については、先ほど申しました二種免許の取得助成と、例えばスクールバスや給食の配達といった運転業務を別々で行っている状況を、業務を一部集約化し改善していくという、今のところはこの2本である。

ただ、今おっしゃられた特別委員会については、商工部署や雇用対策協議会といった部局と情報共有しながら進めていきたいと考えている。しかし新しい計画として打ち出せるところには至っていないというのが現状である。

また全般的な話であるがこの資料に書いてあるものは、一つ上の事業に対して取り組む中でこの5年間でまず明示して進めていくものであり、ここに書いてあるものだけを取組むという訳ではなく、適宜事業の見直しも行う。運転手不足という問題については、郡上市の中でも相当厳しい状況にあると聞いている。これについては今後の課題でもあるので検討していきたい。

委員

バス業界としては、事業者を集めブースを作る就職説明会を開催しているが、郡上市で同様の事をしてもなかなか人が集まらないということもあり、私どもとしても人の集め方というのを教えてほしいという状況である。

しかし人が集まらないのであれば、今度は離れていく人を維持していくため、運転手が辞めないように労働条件の改善をするなど、協会としても色々な知恵や事例などを発することはやっているが、特効薬的なものはなくどこの市町村でもなかなか難しい状況にある。

委員

白鳥や高鷲から市役所本庁舎へ通勤する職員の方は多くみえると思うが、市として何とか公共交通に乗ってほしいと思う。市の職員が自家用車で通勤している人が多いのではないかと思う。八幡にお勤めの保護者が郡上高校に高校生を送迎するため、いつも郡上高校前の道路は車が並んで混んでいる。そういった方に長鉄やバスに乗って通学・通勤してもらえないか。

議長 長鉄では、過去に白鳥方面の方が何人か乗車して出勤していたが、今はもういないのかなと感じる。また、職員間で前は1カ月に1回くらい、「ノーカーデー」という、できるだけ個別の自家用車を使わないで通勤をしようという日があったが、それも今はあまりやっていない。

高校生の公共交通利用については、一定の金額以上になるものについては交通費を助成するという制度があり多くの方にご利用いただいていると思う。特に長鉄については、郡上北高校に通う八幡以南から来る生徒は結構利用していただいている。郡上高校の生徒に関しては、どうしても八幡駅で降りた後にバスに乗り換えなければならず、バスであれば北部から一本で郡上高校付近のバス停で下車できる路線があるため、長鉄は使われていない状況である。

また、保護者に送迎してもらっている生徒については、もちろん公共交通を利用してほしいとは思いますが経費等の様々な理由で同乗していることもあり、なかなか難しいのではと思う。

事務局 職員については、以前は長良川鉄道を使った通勤をお試しでやってみたり、市内の企業の皆さんに長良川鉄道を使って通勤される方に助成を行うという制度をつくったり、少しでも長良川鉄道の活用を促す活動を何回か取り組んだことがあるが、議長の申したとおりいろいろな事情があり、なかなか定着しなかった。現在、長良川鉄道を使つての通勤はほとんど無い状態である。しかしまた機会があればそのような事も考えてみたいと思っている。高校生の通学利用について保護者の送迎という話があったが、市内の2つの高校の全校生徒を対象に実施した高校生アンケート結果では、徒歩のため必要ないという方以外で公共交通を利用しないという方が142名みえた。さらにこの142名のうちの104名が、家族の通勤のついでに送ってもらっているという結果であった。これほど多いのかと少し驚いたところではあるが、高校生の通学利用に関して助成制度を設けているので制度が導入される前と比べると、恐らく公共交通の利用者は増えてきていると思う。

委員 多くの事業を取り上げていただいた中で、事業計画の中ではこういった形でしか書けないのだろうと思うが、実際に事業を行うときはこういった解釈にこだわってしまうとダメなので、もう少し広い意味で検討することが必要だと思う。

先程、利用促進の話が出ていたがクロスセクター分析といって、実は車を使って普段行動するよりも鉄道やバスを使うと健康寿命が延びる。もっと言うと、高齢者の方が医者に行かれると健康保険上で市の財政から補てんする事になるが、これが少なくなる等いろいろな側面で全部の評価というものになると思うので、そういった側面を皆さんで共有し公

公共交通を使えば健康寿命が延び、医者にかかる回数も少なくなるというように、移動の手段だけでなく移動するときの楽しみの様なものも含めて事業化していくといいと思う。

また、いつも利用していない人はどうするのかという話も出ていたが、そういう方にとっては何がメリットなのかということが理解しにくい。そこを少し整理することで資料にかいてあるいろいろな事業が出てくる。そういったところを含めて皆さんで出かけると楽しい自分の足で動いたら楽しいという部分を事業化の際に考えてほしいと思う。

それから、子どもたちに対して小さいころから車でどこでも行けてしまうという習慣を私たちの社会はつけてしまっている。保護者の方も含めて柔軟な発想で子どもたちの話を聞く、学校の先生にもお願いして保護者の皆さんと話し合うなど説明の方向を少しひねるといいなと思う。

一つ一つの基本方針から施策事業に対しては、結構盛りたくさんになっていて良いと思うが実際に進める上での考え方といったところを、前段で説明してもらえると皆さんにとって分かりやすくなると思う。とっつきにくいというイメージが出てしまわないようにすることがすごく大切だと思っている。

事務局

広い意味での検討ということで、公共交通の計画書には主な事業内容を掲載することになり、主な事業のみならず施策がそれぞれ関連しているものが多いのでそういった点も踏まえながら広く検討していきたいと思う。

クロスセクター分析についてはなかなか難しい面はあるが、データがあるものについてはできるものはしていきたいと思っている。仮に数字が出なかったとしてもその傾向等の表記は一部していきたいと思っている。

メリットについては、今回の現行計画でもなかなか一番悩みどころであり、例えばフリー乗降の区間について、これは協議した上で特に国道 156 号などの幹線道路以外のところについてはバス停以外のところでも手を上げていただければ乗ることができ、交通量が少ないところのみに設定している。しかし懇談会の意見では、バス停まで遠いという意見が多くあり、フリー乗降の話をした際聞いたことがないという方がかなり多く、やはりPRが不足しているということを感じた。乗り換えについても、これまで郡上市はどちらかというと時刻表を配ってそれで終わっていたという面があったが、令和3年1月から運行を開始した美並地域の運行見直しにあたっては、例えば美濃市のサピー等まで行くにはこのバス停で何時に乗ってどこで乗り換えると着くという乗り方の周知を詳しくしたり、「マイ時刻表」のような形でチラシの中で切り取ってそれを常時携帯すれば、行きと帰りもわかりやすくなるといった周知を行った。乗り方を含めた周知を今後とも努めていきたいと思っている。

子どもについては、各地域懇談会の中でもほぼ意見があり、子どもも一部公共交通を使って通学している方もみえるが大半の方はそうではないということで、鉄道は乗ったことがあるが、バスは郡上の中ではなかなか乗ったことがないという意見がある。このため、子どもに公共交通に親しんでもらい、それがひいては大人になってからも公共交通に目がいくという形をとっていくべきではないかという意見が挙がっていた。現在「乗り方教室」という表記はしているが、今後も検討していきたいと考えている。

※ 原案どおり承認

#### 4. 情報交換

委員 郡上市の意気込みや事業を行う上で市民の方など、とてもよくやっていただいていると思う。事業を行う上でもこういったスタンスを忘れないようにしていただきたい。

事務局 まずは計画策定段階として7地域での意見交換会を開催したが、もう少し細かい地区での意見を聞くということも大事ではないかという意見もいただいたが、この先事業を進めるにあたっては、例えば路線の見直しについては沿線の自治会の方や利用者の意見を踏まえながら進めていきたいと思っている。

#### 5. 閉会 副会長